



Music Program TOKYO

Workshop Workshop!
東京ネットワーク計画

5館連携 若手アーティスト支援

アフタヌーン・ コンサート

Afternoon Concert by Young Musicians

2025年
(令和7年) 2月15日(土)

15:00開演

東京文化会館 小ホール

Tokyo Bunka Kaikan Recital Hall

曲目 Program

ラフマニノフ：幻想的小品集 Op.3より
第1曲 エレジー
第2曲 前奏曲「鐘」
RACHMANINOFF: from Morceaux de fantaisie, Op.3
No.1 Elegy
No.2 Prelude “The Bells of Moscow”

リスト：ハンガリー狂詩曲第12番
嬰ハ短調 S244-12
LISZT: Hungarian Rhapsody No.12
in c-sharp minor, S244-12

この度、私がピアノを弾き始めた頃から幾度となくお世話になった静岡音楽館AOI様よりご推薦賜り、このような演奏の機会をいただきましたこと、大変光栄に思っております。今回は、共に偉大な作曲家であり、ピアニストとしても一世を風靡したS.ラフマニノフ、F.リストの作品を皆様にお届けいたします。ラフマニノフの幻想小品集Op.3は、モスクワ音楽院卒業の翌年に書かれ、師であるアントン・アレンスキーに献呈されました。第1曲 エレジーは悲歌と訳され、美しく、切ない旋律が奏でられます。第2曲 前奏曲「鐘」は、曲を通して荘厳で大胆に鐘の音が響き、まさにラフマニノフを象徴するような作品です。続いて演奏するリストのハンガリー狂詩曲第12番は、全19曲ある作品群のなかでも人気な作品の一つで、前打音が特徴的な力強い主題を中心に様々な表情を見せます。ホ長調で現れる民族的な主題は、quasi campanelle（鐘のように）の指示とともに高速なパッセージに形を変え、ラフマニノフとはまた違う鐘の響きを表現します。さらに続く嬰ハ短調の旋律は、天から降り注ぐような美しさで、聴く人全ての心を惹きつけるでしょう。このプログラムを通して、19世紀ヨーロッパの風情を感じていただければ幸いです。

（伊澤拓未）

出演者プロフィール Artists Profiles

「静岡の名手たち」より
From Shizuoka no Meishutachi

伊澤拓未(ピアノ) IZAWA Takumi, Piano



2000年静岡市出身。東京音楽大学ミュージック・リベラルアーツ専攻ピアノ演奏家コースを卒業。現在同大学院修士課程2年に在籍中。大阪国際音楽コンクールピアノ部門Age-H第3位。デザインKピアノコンクール大学生部門第3位。第26回「静岡の名手たち」オーディション合格、及びロダン賞。第39回板橋クラシック音楽オーディション合格、及び最優秀賞。2017年ニューヨーク国際ピアノ音楽祭に参加。大学在学中、東京音楽大学ピアノ演奏会〜ピアノ演奏家コース成績優秀者による〜、東京音楽大学創立115周年特別演奏会「ソロ・室内楽の饗宴」等に出演。現在ピアノを岡田敦子、佐藤彦大の各氏に師事。

曲目 Program

カプレ：フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットとピアノのための五重奏曲より 第1楽章、第4楽章
CAPLET: Quintet for Flute, Oboe, Clarinet, Bassoon, and Piano-1st and 4th movements
I. Allegro
IV. Final. Allegro con fuoco

私たち芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインドは「演奏家から〈音楽家〉へ」というスローガンをもとに、幅広い表現力とセルフプロデュース能力の向上を目指し日々研鑽を積んでいます。

本日はアカデミー講師の岡田奏さんとともに、カプレ作曲「フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットとピアノのための五重奏曲」より第1楽章、第4楽章を演奏いたします。

ひとつとして同じ楽器のないこの五重奏がもつ幅広く豊かな響きや、それぞれの楽器がメロディーを紡いでいくアンサンブルの様子、木管楽器とピアノの組み合わせならではの多彩さを魅せることができる作品です。

のびやかで輝かしさを感じられる第1楽章、情熱的ながらさまざまな表情をみせる第4楽章。この2つの楽章の音楽は、日々たくさんの方の経験しながらそれぞれが思い描く音楽家へと成長していく私たちアカデミー生の姿にとても重なります。5つの楽器、5名の音楽家の個性や想いが掛け算となってつくりあげられる音楽をお楽しみください。

（出演者一同）

出演者プロフィール Artists Profiles

芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインドより
木管アンサンブル

Wind Quintet from the Tokyo Metropolitan Theatre
Geigeki Orchestra Academy for Wind

野口美夢(フルート) NOGUCHI Miyu, Flute



東京都出身。国立音楽大学卒業。同大学ディプロマコース修了。これまでにフルートを柳原佑介、立川和男、斎藤和志の各氏に師事。室内楽を小林裕、生方正好の各氏に師事。ニース夏季国際音楽アカデミーにてダヴィデ・フォルミザーノ、クロード・ルフェーブル各氏のマスタークラスを受講。第31回ブルクハルト国際音楽コンクール木管楽器部門第3位受賞。第21回フルートコンヴェンションアンサンブル・アワード部門入賞。現在、洗足学園音楽大学演奏補助要員。芸劇オーケストラアカデミー・フォー・ウインド第9期生。

©T.Tairadate

村松和奈(オーボエ) MURAMATSU Kazuna, Oboe



三重県鈴鹿市出身。愛知県立明和高等学校音楽科、愛知県立芸術大学卒業。第26回中部日本音楽器個人・重奏コンテスト個人の部第1位金賞、中日新聞社賞。第16回日本ジュニア管打楽器コンクール金賞、文部科学大臣賞。第30回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 第1位。第2回JOAオーボエコンクール第2位。NHK名古屋青少年交響楽団卒団生。これまでにオーボエを寺島陽介、宮村和宏、岡北斗、杉原由希子、金子亜未の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学演奏補助要員。芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド 第9期生。

©T.Tairadate

眞塩由希子(クラリネット) MASHIO Yukiko, Clarinet



千葉県出身。9歳よりクラリネットを始める。千葉県立船橋高等学校、東京藝術大学を卒業後、現在同大学院音楽研究科修士課程に在学中。芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド第11期生。これまでにクラリネットを松元香、野田祐介、三井秀実、高子由佳の各氏に、室内楽を齋藤雄介、佐藤由起、嶋崎耕三、福士マリ子、西川智也の各氏に師事。第11回ヤングクラリネットストコンクールヤングアーティスト部門第3位。第49回藝大室内楽定期に出演。第42回ヤマハ新人演奏会に出演。2023年度瀬木芸術財団 短期海外研修奨学生。

©T.Tairadate

北山木乃香(ファゴット) KITAYAMA Konoka, Bassoon



桐朋学園大学音楽学部を卒業後、東京藝術大学別科2年在学中。第33回日本クラシック音楽コンクールファゴット部門最高位。第1回日本ファゴットアンサンブルコンペティションにて金賞など受賞歴多数。バロックファゴット奏者としても活動し、東京二期会ニューウェーブ・オペラ劇場「セルセ」「デイダミアア」、レ・ヴァン・ロマンティーク・トウキョウ「王宮の花火の音楽」に出演。これまでファゴットを安本久男、岡本正之、武井俊樹の各氏に師事。現在、芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド第11期生、東京女子管弦楽団団員。

©T.Tairadate

岡田 奏(ピアノ／講師) OKADA Kana (Trainer), Piano



函館市生まれ。15歳で渡仏、パリ国立高等音楽院でフランク・ブラレイ氏に師事し、ピアノ科・室内楽科・修士課程を最優秀で修了。ブーランク国際ピアノ・コンクール、ピアノ・キャンパス国際コンクール第1位、エリザベート王妃国際音楽コンクールのファイナリスト。ベルギー国立管・シモン・ボリバル響、日本全国のオーケストラで、S・ヴァイグレ、M・オールソップ、P・メイエをはじめとする指揮者と共演。また国内外のピアノ・フェスティバル、音楽祭に出演。CD「Souvenirs－フランス作品集」、「Transformer」、「Encores」をトリトン・レーベルよりリリース。

©Makoto Kamiya

曲目 Program

メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲第2番 イ短調 Op.13より 第1楽章、第2楽章
 ＊アウトリーチ形式による
 MENDELSSOHN: String Quartet No.2 in a minor, Op.13-1st and 2nd movements
 ＊performed in outreach style

メンデルスゾーンは裕福な家庭に生まれました。その恵まれた環境からか彼の音楽はいつも気品高く穏やかで、悲しみさえもある種爽やかに歌い上げてしまうような印象を持たれがちです。しかしこの弦楽四重奏曲というジャンルでは、人間の内面の奥深いところまで切り込み、心をざわつかせるような世界を作り出しています。この作品は彼が10代の時に書かれたましたが、たった十数年の人生を過ごした青年が、こんなにも繊細で激動の感情を秘めていたということに驚かされます。

さて、ここまでは「メンデルスゾーン」という作曲家の人となりを知っている私たちの主観ですが、アウトリーチを聴いてくれた子どもたちはどうでしょうか。事前情報も、予備知識も持たない彼らの感想は、驚くほど自由で屈託のない表現なのです。「今、お日様がさしてきた!」「仲良くなれた気がするね」。彼らは、作品の背景や書法にとらわれがちな私たちに、多くの色彩をもたらしてくれました。それはまるでメンデルスゾーンはこうあるべきという固定観念から、私たちを解放してくれたような感覚でした。

クラシック音楽や弦楽四重奏をよく知る皆さんも、是非今日は自由に身を委ねてみてください。何が見えてくるのでしょうか。

(カルテット・アベリア)

休憩 intermission

曲目 Program

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第10番 変ホ長調 Op.74「ハープ」より 第1楽章、第3楽章、第4楽章
 BEETHOVEN: String Quartet No.10 in E-flat major, Op.74 “Harp”-1st, 3rd, and 4th movements

弦楽四重奏曲第10番、通称“ハープ”は、古典派としてのベートーヴェン、また新たな時代の先駆けとなった革命児としての顔を併せ持った彼の作曲スタイルにおける過渡期とも言える時期に書かれました。曲はゆったりと問いかけるような第1ヴァイオリンのメロディから始まり、聴衆を驚かすような和音の後に楽しげな主題が現れます。ここで低弦から始まるピッツィカートのアレペジオが、ハープと呼ばれる所以です。

私たちがカルテットを組み、活動を始めてから約3年が経ちました。そして現在は、サントリーホール室内楽アカデミーのワークショップ等を通して、様々な曲に取り組んでいます。4人での練習では意見がぶつかることもありますが、互いに意見を出し合い、歩み寄り、全員で1つの音楽を作ることこそが、弦楽四重奏の魅力だと私たちは考えています。特にこのベートーヴェンの弦楽四重奏曲は、団結力が大切な作品です。アカデミーを通して学んだ弦楽四重奏の良さを伝えられるよう、また「ルーチェ」という名前にふさわしい、輝かしい音楽を奏でられるよう演奏します。どうぞお楽しみください。

(渡辺紗蘭)

出演者プロフィール Artists Profiles

アウトリーチセミナー修了生による弦楽四重奏：
 カルテット・アベリア
 String Quartet from the Outreach Seminar Alumni
 Quartet Abelia

菊川穂乃佳(ヴァイオリン) KIKUKAWA Honoka, Violin



©Ayane Shindo

田口タ莉(ヴィオラ) TAGUCHI Yuuri, Viola



第16回クロスター・シェーンタール国際ヴァイオリンコンクールにおいて優勝、あわせてヴィルトゥオーゾ賞受賞他国内外のコンクールにて優勝、入賞をはたす。これまでに浜松交響楽団、藝大フィルハーモニア管弦楽団他と共演。現在、漆原朝子、堀正文の各氏に師事。米・アスペン音楽祭に招待される他、ARKフィルハーモニック、アンサンブルofトウキョウ等に出演。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学を首席で卒業。現在、同大学院音楽研究科修士課程3年在学中。

※「カルテット・アベリア」として、NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク主催「ウェールズ弦楽四重奏団によるウェールズ・アカデミー第1期」及び「アウトリーチセミナー 2023」修了。

清水里彩子(ヴァイオリン) SHIMIZU Risako, Violin



©Ayane Shindo

田上史奈(チェロ) TAGAMI Fumina, Cello



東京藝術大学卒業。大学在学中に東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団に入団。現在、第2ヴァイオリン奏者として在籍する傍ら、国内各地のプロオーケストラにファジビラー等で客演。第5回彩の国String Competition最優秀賞。第24回みえ音楽コンクール第1位、併せて三重県知事賞を受賞。第38回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会第1位。飛騨河合音楽コンクール第3位（弦楽器最高位）。学内成績優秀者として、藝大定期室内楽第46回に出演。フィリアホール室内楽アカデミー第3期生。これまでにヴァイオリンを野上絃子、水野佐知香、野口千代光、徳永二男、篠崎史紀の各氏に師事。

第71回全日本学生音楽コンクール東京大会第1位、全国大会第2位。ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール2019 第1位。第39回草津夏期国際音楽アカデミーにて音楽監督賞受賞。これまでに中田有、山崎伸子、中木健二、フランシス・グトン各氏に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学を卒業。現在、東京藝術大学音楽研究科修士課程、マンハイム国立音楽舞台芸術大学修士課程に在籍。

出演者プロフィール Artists Profiles

サントリーホール室内楽アカデミーより弦楽四重奏：
 カルテット・ルーチェ
 String Quartet from the Suntory Hall Chamber Music Academy
 Quartet Luce

渡辺紗蘭(ヴァイオリン) WATANABE Sara, Violin



2005年生まれ。兵庫県出身。第91回日本音楽コンクールヴァイオリン部門第1位、併せて4つの特別賞を受賞。第3回シンガポール国際ヴァイオリンコンクールセミファイナリスト。第25回松方ホール音楽賞、いしかわミュージックアカデミー IMA音楽賞受賞。2021年ハマのJACKソリストオーディションZカテゴリーに合格、N響メンバーを中心とするオーケストラと共演。また、東京シティ・フィル、東京フィル、セントラル愛知響と共演。使用楽器は一般財団法人ITOより貸与されている1779年製のJ.B.グァダニーニ。小栗まち絵、原田幸一郎の各氏に師事。現在、東京音楽大学2年に特別特待奨学生として在学中。

森 智明(ヴィオラ) MORI Tomoaki, Viola



3歳からヴァイオリンを始める。第73回全日本学生音楽コンクール高校の部大阪大会本選出場。第22回大阪国際音楽コンクールAge-U 入選。いしかわミュージックアカデミーに参加。桐朋学園大学内の成績優秀者によるStudent Concertに出演。一般財団法人 福島育英会奨学生。ヴァイオリンを原田幸一郎、神谷美千子、西和田ゆうの各氏に、室内楽を水谷晃、山崎伸子、池田菊衛、銅銀久弥の各氏に師事。現在、桐朋学園大学音楽学部4年在学中。

カルテット・ルーチェ(弦楽四重奏) Quartet Luce, String Quartet
 2021年に東京音楽大学付属高等学校に在学する4人により結成。現在は東京音楽大学、桐朋学園大学に在学するメンバーから成る。「ルーチェ」とはイタリア語で「光」。輝かしい音楽を奏でられるようにという意味を込めて名付けた。2021年東京芸術劇場にて開催された、東京音楽大学付属高校チャリティーコンサートに出演。2022年～24年プロジェクトQ・第20～22章に参加。2024年とやま室内楽フェスティバルに参加し、ワークショップと2つのコンサートに出演。原田幸一郎、小栗まち絵の各氏に師事。サントリーホール室内楽アカデミー第8期フェロー。

中嶋美月(ヴァイオリン) NAKAJIMA Mitsuki, Violin



2004年生まれ。4歳からヴァイオリンを始める。第69回全日本学生音楽コンクール小学校の部全国大会第1位。第34回かながわ音楽コンクール神奈川県知事賞受賞、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共演。第72回全日本学生音楽コンクール中学校の部東京大会第2位。第18回大阪国際音楽コンクール弦楽器部門Age-J 第2位(最高位)。第16回セシリア国際音楽コンクール高校生の部第1位。第92回日本音楽コンクールヴァイオリン部門第2位及び谷谷賞（聴衆賞）。原田幸一郎、神尾真由子、小栗まち絵の各氏に師事。現在、東京音楽大学2年在学中。

原田佳也(チェロ) HARADA Kaya, Cello



2005年生まれ。5歳から毛利伯郎氏に師事しチェロをはじめ。ニューヨーク市立Special Music Schoolにて学んだのち、東京音楽大学附属高等学校に入学。22、23年度いしかわミュージックアカデミー奨励賞受賞。現在、東京音楽大学1年在学中。

曲目 Program

ショパン：

舟歌 嬰へ長調 Op.60

スケルツォ第2番 変ロ短調 Op.31

CHOPIN:

Barcarolle in F-sharp major, Op.60

Scherzo No.2 in b-flat minor, Op.31

「舟歌」はヴェネツィアの Gondola 漕ぎの歌に由来するとされています。この作品はショパンの死の4年前に作られた曲ですが、当時、ショパンは長年連れ添った恋人との関係が破局寸前となり、持病も悪化して心身ともに疲れ果てた状態だったと言われています。舟歌独特のリズムにのせて歌われるメロディは、ヴェネツィアの海への憧れとともに、ショパン自身の痛みや悲しみ、孤独感など、内面的で深い感情が込められているように感じます。

「スケルツォ第2番」は、ショパンがバリで音楽家として成功を収め、活躍していた27歳の時の作品です。スケルツォはイタリア語で、「冗談、ユーモア」などを意味しますが、ショパンのスケルツォは、暗さ、抑圧、解放、軽快、動揺、失望、感動、安らぎなどの様々な感情がダイナミックに表現されています。全4曲中の「第2番」はミステリアスでドラマティックな展開の中にも、優美なメロディや瞑想的な中間部も魅力的で、最後は華々しく終結します。

“ピアノの詩人”ショパンの曲とともに、ピアノの魅力をお伝えすることができましたら幸いです。

(中島英寿)

出演者プロフィール Artists Profiles

東京音楽コンクール入賞者より

From Tokyo Music Competition Prizewinners

中島英寿(ピアノ) 第20回ピアノ部門第1位及び聴衆賞

NAKAJIMA Hidekazu, Piano

1st prize and Audience Award of Piano section at the 20th Tokyo Music Competition



©加納典明

愛知県出身。第20回東京音楽コンクールピアノ部門にて第1位併せて聴衆賞を受賞したほか数々のコンクールで1位及び上位入賞を果たしている。名古屋市立菊里高等学校音楽科卒業後、現在は桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマコース在学中。これまでに飯塚麻希、小川公未、佐野翠、田崎悦子、若林顕の各氏に、室内楽を藤井一興氏に師事。「文化庁/日本演奏連盟主催 新進演奏家プロジェクト・リサイタルシリーズ」や「ChildAid Asia」では海外公演に出演、国内外にてオーケストラとの共演やリサイタルおよび室内楽にも積極的に取り組んでいる。

Music Program TOKYO Workshop Workshop! 東京ネットワーク計画

多くの文化施設や芸術団体では、独自の若手アーティスト育成・支援プログラムを行っており、そこで育った人材が国内外の大舞台で活躍しています。同時に、ホールでのコンサートだけでなく、より多くの方に音楽を届けようと地域や教育・社会福祉施設等に出掛けて行うアウトリーチ・コンサートも盛んに実施されるようになっており、若手アーティストの活動の場は確実に増えています。

東京文化会館では、「東京ネットワーク計画」を通じて、都内の文化施設や芸術団体とネットワークを結び、若手アーティストの活動支援や、音楽活動による地域の活性化に取り組んでいます。

〈令和6年度の取り組み〉

都内文化施設と連携したコンサートの実施

都内の区市町村等に、東京文化会館が主催する東京音楽コンクールで優秀な成績をおさめた若手アーティストを派遣し、都内文化施設と東京文化会館が共催でコンサートやアウトリーチ公演を行っています。都内の様々な文化施設と若手アーティストとの輪を広げ、地域の特性を生かしたコンサートをお届けします。

●みんなでわくわく! 森の室内楽団ファミリーコンサート

オーボエ篠原拓也さんを中心に木管楽器とピアノによる室内楽コンサートを開催し、クラシック音楽の名曲や作曲家である森亮平さんのオリジナルの作品を演奏しました。このコンサートでは0才から入場可能とし、初めてのコンサートホールでの音楽体験として、赤ちゃんから大人まで多くの方に楽しんでいただきました。

2024年7月27日(土) 町田市民ホール

オーボエ：篠原拓也 *第9回東京音楽コンクール木管部門第2位
フルート：正木知花
クラリネット：安藤友香理
ファゴット：北原亮司
ピアノ・作曲：森 亮平

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館
共催：一般財団法人町田市文化・国際交流財団



7/27(土)町田市民ホール



●木管六重奏コンサート ～音楽を愛する皆様に贈る、心にしみるアンサンブル～

くにたち市民芸術小ホールのリクエストにより、東京音楽コンクール入賞者を中心とした木管楽器とピアノによる木管六重奏のコンサートを共催しました。
吹奏楽器の演奏が盛んな国立市の地域のみならず、国内外で活躍する演奏者による本格的なクラシック音楽とトークをお聴きいただく濃密なコンサートとなりました。

2025年1月26日(日) くにたち市民芸術小ホール

オーボエ：副田真之介 *第13回東京音楽コンクール木管部門第2位及び聴衆賞
フルート：多久和怜子 *第11回木管部門第2位
クラリネット：須東裕基
ファゴット：保崎 佑 *第21回木管部門第1位及び聴衆賞
ホルン：吉田智就 *第20回金管部門第1位
ピアノ：角野未来 *第21回ピアノ部門第3位

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館
共催：公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団／くにたち市民芸術小ホール

首都圏文化施設・芸術団体と連携した人材の育成

東京文化会館では都内文化施設や芸術団体と協力し、次代を担う「人材」を育成します。

●若手音楽家活動支援セミナー

「音楽家のための確定申告講座」

2025年2月2日(日) 東京文化会館 大会議室

講師：山内真理(公認会計士・税理士／公認会計士山内真理事務所／株式会社THNKアドバイザー代表)
フリーランスとして活動する多くの若手音楽家にとって避けては通れない「確定申告」。
正しい仕方を確認して、社会の一員として必要な事務手続きを学びます。

「音楽家のためのSNS運用講座」

2025年2月23日(日・祝) 東京文化会館 大会議室

講師：洞田貫晋一郎(SNSプランナー／洞田貫プランニング株式会社)
情報にあふれた世の中で、音楽家の活動に関して魅力的に発信するために、SNSをうまく運用する方法を学びます。

5館連携 若手アーティスト支援 アフタヌーン・コンサート

各文化施設で育った若手アーティストと文化芸術・教育・社会福祉関係者、応援して下さるお客様をつなぐ取り組みとして「アフタヌーン・コンサート」を開催いたします。

令和6年度、この公演は、東京芸術劇場、トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール、サントリーホール、東京文化会館に、新たに静岡音楽館AOIも加わり、5館の連携により実現しました。
まさに次代を担う若手アーティストの熱演とアウトリーチのデモンストレーションを交えたコンサートをお楽しみください。

静岡音楽館AOI Concert Hall Shizuoka

CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

静岡音楽館AOIは、未来ある静岡の音楽文化を担う場所として1995年に開館しました。東京、名古屋から新幹線ひかり号で約1時間、JR静岡駅前の静岡中央郵便局内に位置し、618席のホールは最高レベルの音響を誇り、世界的な音楽家から愛されています。静岡音楽館AOIは芸術監督のもと、静岡から発信する新しい音楽文化の創造、発展を目指し、多彩なコンサート、講座等を開催しています。

「静岡の名手たち」オーディション

1995年の静岡音楽館AOIの開館時より、静岡にゆかりのある新進音楽家の発掘・育成のため、毎年オーディションを開催しています。オーディション合格者は「静岡の名手たち」として、静岡音楽館AOI主催のコンサートなどに出演いただきます。これまでに延べ316名が合格し、それぞれの分野で活躍しています。また、オーディションでは「ロダン賞」「コンチェルト賞」を選考し、受賞者の演奏機会の創出を担っています。

●ロダン賞

静岡県立美術館ロダン館でのコンサートの出演者として、静岡音楽館AOIから推薦します。

●コンチェルト賞

(公財)富士山静岡交響楽団が出演するコンサートのソリストとして、静岡音楽館AOIから推薦します。

※各賞は、合格者における優劣を示すものではありません。

「静岡の名手たち」オーディションに関するさらに詳しい情報については静岡音楽館AOIのHPをご覧ください。



ロダン賞



コンチェルト賞

〈これまでの主な合格者〉

嶋田慶子(第1回合格／NHK交響楽団ヴァイオリン奏者)
松谷 卓(第1回合格／ピアニスト、作曲家として朝日放送テレビ番組「大改造!!劇的ビフォーアフター」テーマ曲を作曲・演奏)
大木麻理(第13回合格／ミュゼザ川崎シンフォニーホール・ホールオルガニスト)
今田 篤(第13、15回合格／ピアニスト、第10回浜松国際ピアノコンクール第4位)
戸村愛美(第21回合格／Lumie Saxophone Quartet アルトサクソフォン奏者)
ほか

過去の合格者の主な活躍はこちらからもご覧いただけます。



「静岡の名手たち」Facebook

オーディション合格者が出演するコンサート

●オーケストラ 名曲の午後 (「AOIのオープン・デイ」より)

歴代の「静岡の名手たち」を中心としたメンバーによるオーケストラ公演を開催しています。ホールやロビーを会場とし、多様なコンサートやワークショップを無料でお届けするイベント「AOIのオープン・デイ」の一つです。



写真：日廣真光

●「静岡の名手たち」による「どこでもAOI」(アウトリーチ・コンサート)

静岡市内の小中学校等を対象に、学校にあるピアノを演奏し、質の高い音楽鑑賞の機会を提供します。



東京芸術劇場 Tokyo Metropolitan Theatre

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

東京芸術劇場は、1990年に開館し、大規模改修を経て2012年にリニューアルオープンしました。東京都の音楽・舞台芸術を代表する「顔」として、長期的な視点から「芸術文化の創造発信」「人材育成・教育普及」「賑わい」「国際文化交流」の拠点を目指し、質の高いプログラムを実施しています。

※設備更新工事のため、2024年9月30日～2025年7月中(予定)まで一時休館中

芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド(GOA)

東京芸術劇場では、2014年から若き管打楽器奏者を対象とした無償のアカデミープログラムを開設しています。全国各地から総勢16名のアカデミー生が在籍し、レッスン、キャリアアップゼミ、コンサートからなる3年間のカリキュラムを受講。アカデミー生はこれから社会で活躍するためのキャリアプランを劇場とともに考え、オーケストラや吹奏楽だけに限らない幅広い表現力と、セルフプロデュース能力の向上を目指して研鑽を積んでいます。

これまで、約70名近くの若き管打楽器奏者が学び、国内外で活躍しています。

講師(令和6年度)

福川伸陽(ミュージック・アドバイザー/ホルン)、斎藤和志(フルート)、荒木奏美(オーボエ)、アレッシェンドロ・ベヴェラリ(クラリネット)、長 哲也(ファゴット)、佐藤友紀(トランペット)、青木 昂(トロンボーン)、次田心平(チューバ)、小林沙羅(ソプラノ)、中木健二(チェロ)、岡田 奏(ピアノ)

在籍生・卒団生の主な活躍

中山泰洋(第6期生/ルセ国立歌劇場管弦楽団(ブルガリア)首席オーボエ奏者)

陶山咲希(第7期生/兵庫芸術文化センター管弦楽団 ファゴット奏者)

小荒井千里(第8期生/航空自衛隊音楽隊 サクソフォーン奏者)

森山拓哉(第8期生/兵庫芸術文化センター管弦楽団 ティンパニ奏者、神戸市室内管弦楽団 ティンパニ・打楽器奏者)

山田悠貴(第10期生/仙台フィルハーモニー管弦楽団 首席チューバ奏者) ◆在籍生

カリキュラム紹介

《カリキュラム① レッスン》

第一線で活躍する演奏家たちが、楽器の垣根を越えて個人・アンサンブルの指導にあたります。講師は管打楽器だけでなく、ピアノ、弦楽器、声楽などさまざまな演奏分野から集結。アカデミー生はあらゆる角度から表現を磨いていきます。さらにプロのオーケストラへの入団を見据え、オーケストラ・スタディのレッスンも実施いたします。



木管オーケストラ・スタディのレッスン

《カリキュラム② キャリアアップゼミ》

社会のなかで活躍できる音楽家になるには? キャリアアップゼミでは、プログラムノートの書き方から、身体のしくみ、キャリアプラン、さらにはビジネスマナーや確定申告に至るまで、さまざまな分野の専門家を招聘し、アカデミー生の持続的な活動をバックアップしていきます。



講義風景(ビジネスマナーについてのゼミ)

《カリキュラム③ コンサート》

卒団生によるショーケース

最終年次のアカデミー生は、自分の名刺代わりとなるような、各自30分のプログラムの企画と実演に取り組みます。講師や劇場スタッフが企画段階からアカデミー生に伴走し、年度末の本番までサポートをします。アカデミーで学んだ音楽とセルフプロデュース力を発揮し、卒団後のキャリアを切り拓くための活動の集大成です。



昨年度のコンサートの様子

劇場外での演奏

年間を通じて、アカデミー生はさまざまな演奏の依頼を受け、劇場を飛び出して演奏活動を行います。依頼演奏では、依頼の段階からアカデミー生が主体的に参画し、音楽面だけでなく総合的に公演の制作プロセスを経験していきます。公共劇場の人材育成プログラムとして、お客様に音楽を届けることに真摯に取り組んでいきます。

◆2024年5月3日(金・祝)、5日(日・祝)

「TACTフェスティバル2024 街角LIVE!」

会場：池袋西口公園野外劇場 グローバルリングシアター ほか

主催：東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 / 豊島区



©藤井元永

◆2024年10月19日(土)

「豊島区・箕輪町交流事業 ハロウィンコンサート in MINOWA」

会場：箕輪町文化センターホール(長野県)

主催：箕輪町・箕輪町教育委員会



◆2024年9月14日(土)～15日(日)

「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL[サラダ音楽祭] SaLaDミニコンサート」

会場：池袋西口公園野外劇場 グローバルリングシアター ほか

主催：TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL[サラダ音楽祭]実行委員会 (東京都、公益財団法人東京都交響楽団、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場、豊島区、三菱地所株式会社)



◆2024年11月21日(木)

「アリオス キッズルーム・シアター #58」

会場：いわき芸術文化交流館アリオス 大リハーサル室(福島県)

主催：いわき芸術文化交流館アリオス



トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール

Triton Arts Network / Dai-ichi Seimei Hall



トリトン・アーツ・ネットワークは、第一生命ホール(東京都中央区晴海)を拠点として、音楽活動を通じて地域社会に貢献する認定NPO法人です。「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」を活動理念とし、「音楽によるコミュニティの活性化——音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」を目指し、ホール事業とコミュニティ事業の2つの柱を軸に活動しています。とくにコミュニティ事業は、NPOの会員、サポーター(ボランティア)、寄付等の様々なご支援で実現しています。

コミュニティ事業：若手演奏家の支援～アウトリーチセミナー

若い演奏家を対象に、子どもと音楽との出会いの場「アウトリーチ」を考えるセミナーを開催しています。講師であるヴァイオリニスト・松原勝也氏(東京藝術大学教授)とともに「音楽を演奏するとはどういうことか」「音楽を子どもたちと共有するとはどういうことか」をじっくり考えながらリハーサルを重ね、夏のオープンハウスでの発表の場を経て、秋・冬は実際に小学校を訪れて4年生を対象としたアウトリーチを行っています。徹底的に音楽と向き合ったりハーサルをし、子どもたちと共有することが、演奏家にとって曲の理解につながり、自身の音楽も深まる結果となっています。セミナー修了後は、幼稚園・保育園でのアウトリーチやホールでのコンサートの機会を提供し、さらなるスキルアップを目指します。

《セミナーの流れ》

- トリトン・アーツ・ネットワークスタッフによるオリエンテーション
- 「第一生命ホールオープンハウス」出演に向けての集中セミナー(3日間)



- 「第一生命ホールオープンハウス」出演



- 小学4年生を対象としたアウトリーチに向けてプログラムをブラッシュアップ
- 小学校でのアウトリーチ実践(2校程度)



- 1年間のセミナーの成果発表として「第一生命ホールロビーコンサート」に出演



コミュニティ事業：アウトリーチ活動

中央区およびその近隣の教育機関や病院、福祉施設など、普段生の芸術文化に触れる機会が少ない皆さまのところへアーティストと伺い、音楽をお届けしています。音楽を鑑賞してもらうだけではなく、対象者と演奏家のコミュニケーションを重視した、各訪問先の対象者や特色に合わせたプログラムを行っています。



カルテット・アペリア(アウトリーチセミナー／ウェールズ・アカデミー修了生)による幼稚園アウトリーチ



木管五重奏シュエット(芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド卒団生)による小学校アウトリーチ

ホール事業：ウェールズ・アカデミー

トリトン・アーツ・ネットワークが第一生命ホールで長年開催する『SQW(ストリング・カルテット・ウィークエンド)』シリーズの一環として、2022年度より実施。ミュンヘンARD国際音楽コンクール入賞後、スイス・バーゼル音楽院で研鑽を積んだ「ウェールズ弦楽四重奏団」が、次世代に自らの経験を伝えたいとスタートしたものです。第3期(2024年度)は、2組の弦楽四重奏団が、ベートーヴェンの第5番、シューマンの第3番にそれぞれ取り組んでいます。その成果を3月9日に第一生命ホールで披露します。

《これまでの受講生》

第1期

東 亮汰(ヴァイオリン) 木田奏帆／谷村香衣(ヴィオラ) 山梨浩子(チェロ)
カルテット・アペリア(菊川穂乃佳／清水里彩子(ヴァイオリン) 田口夕莉(ヴィオラ) 田上史奈(チェロ))
レグルス・カルテット[吉江美桜／東條太河(ヴァイオリン) 山本周(ヴィオラ) 矢部優典(チェロ)]

第2期

クワルテット・カノープス[菊地美奈／富田悠介(ヴァイオリン) 古市沙羅(ヴィオラ) 和田ゆずみ(チェロ)]
アグノス・カルテット[窪田隼人／首藤主来(ヴァイオリン) 中井楓梨(ヴィオラ) 倉田俊祐(チェロ)]
山口 絢(ヴァイオリン) 和田志織(ヴィオラ)

第3期

カルテット・リコルド[米岡結姫／松本陽輝(ヴァイオリン) 井上麗香(ヴィオラ) 金 叙賢(チェロ)]
カルテット・アチェロ[平井美羽／清水伶香(ヴァイオリン) 菊田萌子(ヴィオラ) 松蔭ひかり(チェロ)]

ウェールズ弦楽四重奏団メンバーによるレッスン



コミュニティ活動のレポートやトリトンアーツ通信、
年間の事業報告書などをご覧ください。

<https://triton-arts.net>



サントリーホール Suntory Hall



東京初のコンサート専用ホールとして1986年に開館。以来、世界的なアーティストや作曲家、コンサートホールと協働し、グローバルな視野で活動を展開しています。同時に「ENJOY! MUSIC プログラム」と題した教育普及・社会貢献活動を展開し、未来を担う子供たちやプロフェッショナルを目指す若手音楽家たちに向けたプログラム、また、すべての人に身近なホールとなるための多彩な取り組みを実施しています。

ENJOY! MUSIC プログラム

《音楽に出会うよろこびを》—未来を担うこどもたちへ

- いろいろドレドレ—美術と音楽に親しむワークショップ&コンサート—(3〜6歳)
- オルガン研究所(4歳〜)
- 東京交響楽団&サントリーホール こども定期演奏会(小学生〜)
- 佐治敬三 ジュニアプログラムシート(小学生・中学生)
- サントリーホール&ウィーン・フィルの青少年プログラム(中学生・高校生)など

《音楽を創るよろこびを》—若きプロフェッショナルたちへ

- サントリーホール アカデミー
- ウィーン・フィル奏者によるマスタークラス

《より開かれたホールをめざして》

- オープンハウス〜サントリーホールで遊ぼう!(入場無料)
- CMGスペシャル チャレンジド・チルドレンのための室内楽演奏会(入場無料)など



「ENJOY! MUSIC プログラム」
詳細はこちらをご覧ください



いろいろドレドレ



こども定期演奏会(こども奏者がオーケストラ内で演奏)

サントリーホール アカデミー

プロフェッショナルとして歩みはじめた若手音楽家を対象とする、オペラと室内楽の2部門からなるアカデミー。オーディションに合格した受講生は、国内外の第一線で活躍するアーティストに2年間無料で学ぶ機会が与えられ、定期的に行われる勉強会で研鑽を積みまします。成果発表の拠点となるのはブルーローズ(小ホール)。選抜メンバーはサントリーホール制作のオペラ公演や室内楽フェスティバル「チェンバーミュージック・ガーデン」に出演します。両アカデミーの最新情報はサントリーホールHP内の「サントリーホール アカデミー」トピックスで随時紹介しています。

【アカデミー・ディレクター】堤 剛(チェリスト/サントリーホール館長)



「サントリーホール アカデミー」
トピックスページは
こちらをご覧ください

《オペラ・アカデミー》

サントリーホール主催のホール・オペラ®に付随する育成プログラムとして1993年に発足。世界的な指揮者や歌手、コレペティトウアによるレッスンを受けるのみならず、メンバー同士が互いのよき「耳」となり、歌を聴いて意見を述べることで啓発しあう研修会のスタイルが大きな特徴です。2011年秋より若い声楽家・ピアニストのための「プリマヴェーラ・コース」を開設、エグゼクティブ・ファカルティに元テノール歌手で現在は指揮者・音楽指導者として活躍中のジュゼッペ・サッパティエリが就任しました。13年秋には「アドバンスト・コース」を併設。本アカデミーの活動の柱となるブルーローズでのコンサートやオペラ公演の他にも、選抜メンバーにはサントリーホール内外で様々な演奏機会を提供しています。迫田美帆、土屋優子、中川郁文、林 眞暎、石井基幾など国内外のオペラ・プロダクションで活躍する修了生も多く輩出しています。

【エグゼクティブ・ファカルティ】ジュゼッペ・サッパティエリ

【コーチング・ファカルティ】天羽明恵、野田ヒロ子、櫻田 亮、今尾 滋、増原英也、古藤田みゆき、森田 学

【プロデューサー】真鍋圭子(サントリーホール エグゼクティブ・プロデューサー)



エグゼクティブ・ファカルティによる特別研修会



オペラ・アカデミー 30周年記念公演オペラ・ガラ・コンサート第2夜

《室内楽アカデミー》

2010年10月に開講。フェロー(受講生)たちは国内外の第一線で活躍するファカルティ(講師)と共に取り組む毎月2日間の定例ワークショップで、演奏技術からアンサンブルをする上でのコミュニケーションのとり方まで、広い視野でプロの室内楽奏者としての基礎を固めます。お互いの演奏を聴き合う聴講も大きな特徴のひとつです。「チェンバーミュージック・ガーデン」への出演や、とやま室内楽フェスティバルなどの演奏の機会を通じて、室内楽の楽しさと深みを聴き手と分かち合う経験を重ねています。これまでに、葵トリオ(2018年ミュンヘン国際音楽コンクール第1位)のメンバー3人(秋元孝介、小川響子、伊東 裕)、クァルテット・インテグラ(2022年ミュンヘン国際音楽コンクール第2位および聴衆賞)や、ほのカルテット(大阪国際室内楽コンクール2023弦楽四重奏部門第2位)などの若き室内楽奏者を輩出してきました。

【ファカルティ】原田幸一郎、池田菊衛、磯村和英、毛利伯郎、練木繁夫、花田和加子



定例ワークショップ



チェンバーミュージック・ガーデン

東京文化会館 Tokyo Bunka Kaikan



東京文化会館は、1961年の開館以来、オペラ、バレエ、クラシックコンサートなど、世界の名手たちが集う“音楽の殿堂”として多くの人々に親しまれています。自主事業では、新たな舞台芸術の創造発信、幅広い層への教育普及、次代を担う新進音楽家等の発掘・育成を柱に、多彩な事業を展開しています。

東京音楽コンクールと充実した入賞者支援

東京文化会館では、当時の館長であった故三善晃氏(作曲家)のもと、2003年より芸術家としての自立を目指す可能性に富んだ新人音楽家を発掘し、育成・支援を目的に「東京音楽コンクール」を開始しました。現在は国内外から多数の応募が寄せられる、若手音楽家の登竜門となっています。入賞者には、主催・共催事業への出演機会の提供やリサイタル支援など、次代を担う若手音楽家のキャリアステージに即した多彩な入賞者支援を用意しています。



東京音楽コンクール詳細

《入賞者への多彩な支援》

●東京文化会館主催事業への出演

東京音楽コンクール優勝者&最高位入賞者コンサート、東京文化会館《響の森》、上野 de クラシック、オペラBOX、アウトリーチ・コンサート、ミュージック・ワークショップ、舞台芸術創造事業、リラックス・パフォーマンスなど

●共同主催・連携事業への出演

小ホールにおける入賞者リサイタル(入賞者主催)、在京オーケストラとの共演による「フレッシュ名曲コンサート」(区市町村)、まちなかコンサート、東京芸術劇場主催「シアターオペラ」「コンサートオペラ」など

●入賞者プロフィール等の紹介

「東京音楽コンクール 報告書」へ掲載し、音楽事務所やオーケストラ、マスコミ各社に配布
東京文化会館ウェブサイト上での入賞者紹介ページの設置



オペラBOX『トスカ』(2024年9月)



まちなかコンサート(2024年9月)国立国会図書館国際子ども図書館
レンガ棟 3階ホール

東京文化会館の人材育成・教育普及事業

東京の音楽文化の活性化を目指す「Music Program TOKYO」を通じて、様々な若手音楽家の活躍の場を創出しています。

《東京文化会館ミュージック・ワークショップ》

0歳から大人まで～見つけよう、音楽で広がる新しい世界

「音楽の素晴らしさをもっと気軽に、一人でも多くの方に味わってほしい!」という思いのつまったミュージック・ワークショップ。年齢や国籍、障害などの社会的背景に関係なくあらゆる人が参加できる場であること、音楽や芸術に対する関心を高め、自己表現能力やコミュニケーション能力を養い、豊かな心を育てることを目指しています。また、ポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と連携し、“ワークショップ・リーダー”の育成や、独自のプログラム開発にも取り組んでいます。オリジナルワークショップの「はじめましてクラシック」には、東京音楽コンクール入賞者も多数出演しています。さらに、東京文化会館では毎月ミュージック・ワークショップを実施するとともに、都内文化施設、特別支援学校、高齢者・社会福祉施設等でも実施しています。



東京文化会館
ミュージック・ワークショップ
特設ページ

《Music Education Program》

次世代を担う子供たちが舞台芸術に直接触れることで、豊かな心を育み、舞台芸術に対する愛情・理解を深めることを目的としたプログラムです。

●アウトリーチ・コンサート

東京音楽コンクール入賞者が都内保育園・幼稚園、小中学校に赴き、本格的なクラシック音楽による出張コンサートを行います。

●アウトリーチ・ワークショップ／クリニック

部活動など学校の授業外で行われているブラスバンドやオーケストラ、和楽器などで音楽活動をしている小中学生へ、東京音楽コンクール入賞者や、ワークショップ・リーダーが直接技術指導を行います。

●アウトリーチ・ワークショップ

東京文化会館ワークショップ・リーダーが、学校の授業の一環として東京文化会館ミュージック・ワークショップを実施する参加型教育プログラムです。



ミュージック・ワークショップ・フェスタ(夏)(2024年7月)
「One Day コーラス」
江東区豊洲文化センター 豊洲シビックセンターホール



アウトリーチ・コンサート(2024年5月)